

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2022年12月15日(15.12.2022)



(10) 国際公開番号

WO 2022/259917 A1

- (51) 国際特許分類:
A61K 8/37 (2006.01) A61K 8/44 (2006.01)
A61K 8/02 (2006.01) A61K 8/63 (2006.01)
A61K 8/31 (2006.01) A61K 8/891 (2006.01)
A61K 8/36 (2006.01) A61Q 1/14 (2006.01)
A61K 8/39 (2006.01) A61Q 19/10 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2022/022130
- (22) 国際出願日: 2022年5月31日(31.05.2022)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2021-096964 2021年6月9日(09.06.2021) JP
- (71) 出願人: 株式会社 資生堂 (SHISEIDO COMPANY, LTD.) [JP/JP]; 〒1040061 東京都中央区銀座7丁目5番5号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者: ファレンティナ ステファニー (VALENTINA Stephanie); 〒1040061 東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会社資生堂内 Tokyo (JP). 蛭間 有喜子 (HIRUMA Yukiko); 〒1040061 東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会社資生堂内 Tokyo (JP). 牧野 佑亮 (MAKINO Yusuke); 〒1040061 東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会社資生堂内 Tokyo (JP).
- (74) 代理人: 岩橋 祐司 (IWAHASHI Yuji); 〒2220033 神奈川県横浜市港北区新横浜二丁目5番地15 Kanagawa (JP).
- (81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IQ, IR, IS, IT, JM, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

(54) Title: CLEANING AGENT COMPOSITION

(54) 発明の名称: 洗浄料組成物

(57) Abstract: This cleaning agent composition comprises 50-85 mass% of an oily component (A), and 12-45 mass% of a surfactant (B). The oily component (A) comprises a triester compound (A1) of a trihydric polyhydric alcohol and a higher fatty acid having at least 8 carbon atoms, and a second liquid oil (A2) which is at least one selected from the group consisting of: a triester compound oil of a trihydric polyhydric alcohol and a higher fatty acid having at least 8 carbon atoms; a triester compound and/or a tetraester compound of a tetrahydric polyhydric alcohol and a higher fatty acid having at least 6 carbon atoms; and a diester compound of a higher alcohol having at least 16 carbon atoms and an N-acylglutamic acid having at least 10 carbon atoms in an acyl group. The second liquid oil has a viscosity of at least 40 mPa·s at 30 °C.

(57) 要約: 洗浄料組成物は、(A) 50質量%~85質量%の油性成分と、(B) 12質量%~45質量%の界面活性剤と、を含む。(A) 油性成分は、(A1) 3価の多価アルコールと炭素数8以上の高級脂肪酸とのトリエステル化合物と、(A2) 3価の多価アルコールと炭素数8以上の高級脂肪酸とのトリエステル化合物油、4価の多価アルコールと炭素数6以上の高級脂肪酸とのトリエステル化合物及び/又はテトラエステル化合物、並びに炭素数16以上の高級アルコールとアシル基の炭素数が10以上のN-アシルグルタミン酸とのジエステル化合物からなる群から選択される少なくとも1つである第2の液状油分と、を含む。第2の液状油分は、30°Cにおいて40 mPa·s以上の粘度を有する。

WO 2022/259917 A1

添付公開書類：

- 一 国際調査報告（条約第21条(3)）

明 細 書

発明の名称：洗淨料組成物

関連出願

[0001] 本発明は、日本国特許出願：特願2021-96964号（2021年06月09日出願）の優先権主張に基づくものであり、同出願の全記載内容は引用をもって本書に組み込み記載されているものとする。

技術分野

[0002] 本開示は、洗淨料組成物に関する。特に、本開示は、油性成分を主成分とする油性洗淨料組成物に関する。

背景技術

[0003] クレンジングオイル等の油性洗淨料は、油性化粧料の洗淨に適している（例えば、特許文献1参照）。

[0004] 特許文献1には、（A）HLBが6～14の非イオン性界面活性剤と、（B）油性成分とを含有し、水の配合量が5質量%未満であり、組成物と水を4：6の割合となるように混合した時にミセル水溶液相あるいはバイコンティニューアスミクロエマルション相となる油性クレンジング組成物が開示されている。

先行技術文献

特許文献

[0005] 特許文献1：WO2005/079729A1

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0006] 以下の分析は、本開示の観点から与えられる。

[0007] 油性洗淨料は、一般的には、透明性を有している。油性化粧料は、油性メーキャップの洗淨に用いられることが多い。メーキャップの洗淨は、例えば、帰宅時等の手洗い後、お風呂場等、手が濡れた状態で行われることがある。しかしながら、油性洗淨料のなかには、手に付着した水と混合すると乳化

が生じてしまうものがある。透明な油性洗浄料が乳化すると白濁する。洗浄料が白濁すると、洗浄性の低下が生じたり、使用者は、洗浄料が変性したように感じてしまう。したがって、洗浄力が高く、濡れた手で油性化粧品を採っても白濁しない油性化粧品が望まれる。

[0008] また、洗浄料組成物にはある程度の粘度（とろみ）があることが望ましい。とろみがあると、手に採りやすいだけでなく、より多くの洗浄料を洗浄部分（例えば肌）に密着させることができ、洗浄力を高めることができる。また、使用者にも洗浄料が肌に密着している印象を与えることができる。さらに、洗浄料にとろみがあると、洗浄部分を手でこすったときに、手と洗浄部分との間に洗浄料が介在することによって、摩擦抵抗を低減でき、肌への負担を軽減することができる。特許文献1に記載の油性クレンジング組成物においては、組成物のとろみが不十分となることがある。

[0009] そこで、使用時に手に付着した水と混合しても白濁が生じず、とろみのある状態で洗浄することができる洗浄料組成物が求められている。

課題を解決するための手段

[0010] 本開示の第1視点によれば、(A) 50質量%～85質量%の油性成分と、(B) 12質量%～45質量%の界面活性剤と、を含む。(A) 油性成分は、(A1) 下記化1に示す式で表されるエステル油からなる液状の第1の油分と、(A2) 第1のエステル油、第2のエステル油及び第3のエステル油からなる群から選択される少なくとも1つである第2の油分と、を含む。第1のエステル油は、3価の多価アルコールと、炭素数8以上の高級脂肪酸とのトリエステル化合物である。第2のエステル油は、4価の多価アルコールと、炭素数6以上の高級脂肪酸とのトリエステル化合物及びテトラエステル化合物からなる群から選択される少なくとも1つである。第3のエステル油は、炭素数16以上の高級アルコールと、アシル基の炭素数が10以上のN-アシルグルタミン酸とのジエステル化合物である。第2の油分は、30℃において40mPa・s以上の粘度を有する。炭化水素油が洗浄料組成物の質量に対して10質量%以下である。シリコン油が洗浄料組成物の質量

に対して5質量%以下である。水が洗浄料組成物の質量に対して5質量%以下である。

発明の効果

- [0011] 本開示の洗浄料組成物は、透明な外観を有している。本開示の洗浄料組成物は、水が混合しても透明性を維持することができる。
- [0012] 本開示の洗浄料組成物は高い洗浄性を有する。例えば、本開示の洗浄料組成物は油性化粧品に対して高い洗浄力を有する。
- [0013] 本開示の洗浄料組成物は、手に採ったときに厚みを持つことができる。これにより、本開示の洗浄料組成物の使用性を高めることができる。また、洗浄料組成物の肌への密着性を高めることができるのみならず、洗浄部分をより多くの洗浄料組成物でもって洗浄することができる。

発明を実施するための形態

- [0014] 上記各視点の好ましい形態を以下に記載する。
- [0015] 上記第1視点の好ましい形態によれば、第1のエステル油は、下記化2に示す式で表される化合物、及び下記化3に示す式で表される化合物からなる群から選択される少なくとも1つである。
- [0016] 上記第1視点の好ましい形態によれば、第2のエステル油は、下記化4に示す式で表される化合物、及び下記化5に示す式で表される化合物からなる群から選択される少なくとも1つである。
- [0017] 上記第1視点の好ましい形態によれば、第3のエステル油は、下記化6に示す式で表される化合物である。
- [0018] 上記第1視点の好ましい形態によれば、第2の油分は、トリスステアリン、テトラエチルヘキサン酸ペンタエリスリチル、ラウロイルグルタミン酸ジ（フィトステリル／オクチルドデシル）、ラウロイルグルタミン酸ジ（ヘキシルデシル）、及びステアロイルグルタミン酸ジオクチルドデシルからなる群から選択される少なくとも1つを含む。
- [0019] 上記第1視点の好ましい形態によれば、第1の油分は、エチルヘキサン酸セチル、パルミチン酸エチルヘキシル、ミリスチン酸イソプロピル及びピバ

リン酸イソデシルからなる群から選択される少なくとも1つを含む。

[0020] 上記第1視点の好ましい形態によれば、第1の油分は油性成分の総量に対して40質量%~90質量%である。第2の油分は油性成分の総量に対して5質量%~50質量%である。

[0021] 上記第1視点の好ましい形態によれば、第1の油分、第2の油分及び界面活性剤を質量比1:1:1で25℃で混合した混合物は透明である。

[0022] 上記第1視点の好ましい形態によれば、界面活性剤はポリオキシアルキレングリセリン脂肪酸エステルである。

[0023] 上記第1視点の好ましい形態によれば、界面活性剤のHLBは8~14である。

[0024] 上記第1視点の好ましい形態によれば、油性成分は、洗浄料組成物の質量に対して0.2質量%~2質量%のイソステアリン酸をさらに含む。

[0025] 上記第1視点の好ましい形態によれば、洗浄料組成物は、30℃において25mPa·s~3,000mPa·sの粘度を有する。

[0026] 上記第1視点の好ましい形態によれば、油ゲル化剤が洗浄料組成物の質量に対して0.5質量%以下である。

[0027] 以下の説明において、POEはポリオキシエチレン、POPはポリオキシプロピレンの略記で、POE又はPOPの後ろのカッコ内の数字は当該化合物中におけるPOE基又はPOP基の平均付加モル数を表す。

[0028] 本開示において「実質量」とは、その化合物の添加による作用効果が生じ得る量をいう。

[0029] 本開示の第1実施形態に係る洗浄料組成物について説明する。

[0030] 本開示において「液状」とは、大気圧下、25℃で液体のもの、流動性を有するものをいう。

[0031] 本開示の洗浄料組成物は、(A)油性成分と、(B)界面活性剤と、を含む。

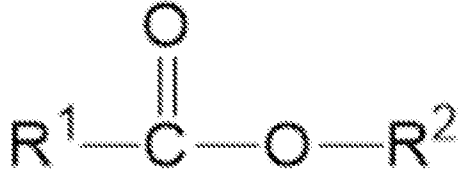
[0032] [(A)油性成分]

成分(A)は、(A1)第1の油分と、(A2)第2の油分とを含む。

[0033] [(A1) 第1の油分]

第1の油分は大気圧下、25℃において液状である。第1の油分は、下記化1に示す式で表されるエステル油を含むことができる。

[0034] [化1]



[0035] 化1に示す式において、R¹は直鎖又は分岐鎖を有する炭素数3～18、好ましくは4～15、より好ましくは5～9のアルキル基である。R²は直鎖又は分岐鎖を有する炭素数3～18のアルキル基であり、好ましくは炭素数14～18のアルキル基である。R¹とR²の炭素数の合計は30以下、より好ましくは14～23である。

[0036] 化1に示す式で表される化合物としては、例えば、エチルヘキサン酸セチル、パルミチン酸エチルヘキシル（パルミチン酸オクチル）、ミリスチン酸イソプロピル及びピバリン酸イソデシルからなる群から選択される少なくとも1つとすることができる。

[0037] 成分(A1)は、成分(A)の質量に対して、40質量%以上、45質量%以上、50質量%以上、55質量%以上、又は60質量%以上とすることができる。成分(A1)は、成分(A)の質量に対して、90質量%以下、85質量%以下、80質量%以下、75質量%以下、又は70質量%以下とすることができる。

[0038] 成分(A1)は、例えば、洗浄料組成物の質量に対して、25質量%以上、30質量%以上、又は35質量%以上とすることができる。成分(A1)は、例えば、洗浄料組成物の質量に対して、65質量%以下、60質量%以下、55質量%以下、又は50質量%以下とすることができる。

[0039] [(A2) 第2の油分]

第2の油分は大気圧下、25℃において液状、ワックス状又は固体であることができる。第2の油分は、第1のエステル油、第2のエステル油及び第

3のエステル油からなる群から選択される少なくとも1つとすることができる。第2の油分は、第1の油分と第2の油分との混合物の粘度が、第1の油分単体の粘度よりも高くすることができるような化合物であると好ましい。これにより、洗浄料組成物にとろみをもたせることができる。

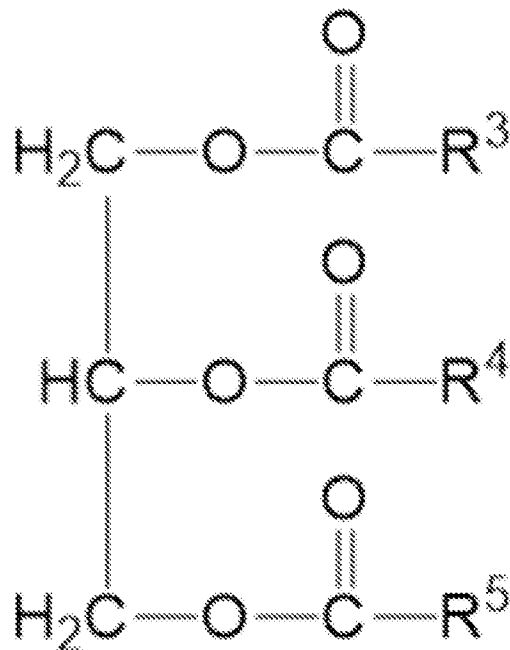
[0040] [第1のエステル油]

第1のエステル油は、3価の多価アルコールと、炭素数8以上の高級脂肪酸とのトリエステル化合物とすることができる。

[0041] 当該高級脂肪酸の炭素数は、例えば、22以下、20以下、又は18以下とすることができる。当該高級脂肪酸の炭素数は、例えば、10以上、12以上、又は14以上とすることができる。

[0042] 第1のエステル油は、下記化2に示す式で表される化合物及び下記化3に示す式で表される化合物からなる群から選択される少なくとも1つとすることができる。

[0043] [化2]

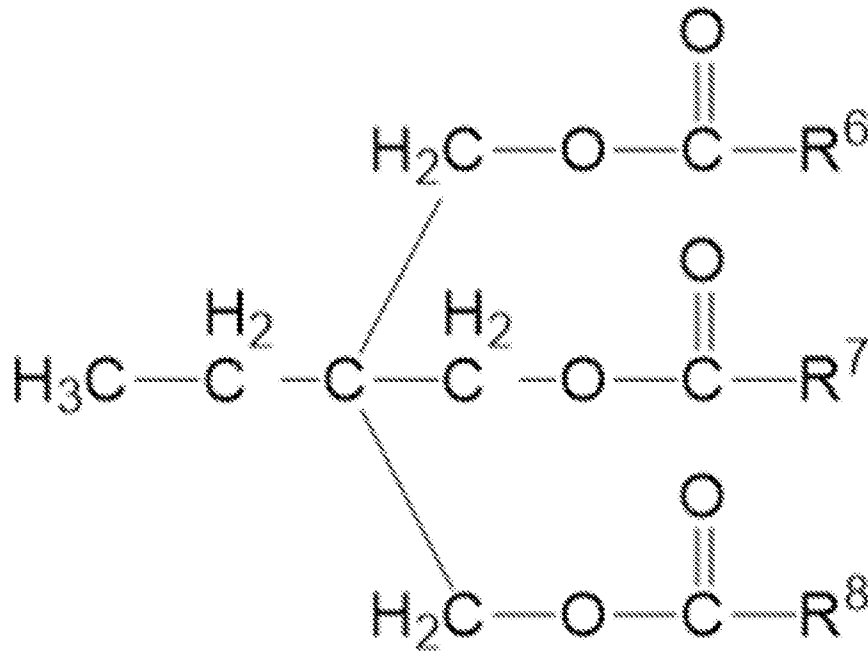


[0044] 化2に示す式において、 $\text{R}^3 \sim \text{R}^5$ は、それぞれ独立して、直鎖又は分岐鎖を有する炭素数7～20のアルキル基である。

[0045] 化2に示す式で表される化合物としては、例えば、 $\text{R}^3 \sim \text{R}^5$ が、それぞれ

、イソステアリン酸であるトリイソステアリンを挙げることができる。トリイソステアリンは、例えば、 $R^3 \sim R^5$ が、それぞれ、2, 2, 4, 8, 10, 10-ヘキサメチルウンデカン-5-カルボン酸（別名2-(4, 4-ジメチル-2-ペンチル)-5, 7, 7-トリメチル-n-オクタン酸）におけるカルボキシ基以外のアルキル基（カルボン酸残基）である化合物（IOB=0.168）、及びヘプタデカン-8-カルボン酸（別名2-ヘプチルウンデカン酸）におけるカルボキシ基以外のアルキル基である化合物（IOB=0.162）からなる群から選択される少なくとも1つとすることができる。IOB（Inorganic Organic Balance）は、無機性値/有機性値から算出することができる。

[0046] [化3]



[0047] 化3に示す式において、 $R^6 \sim R^8$ は、それぞれ独立して、直鎖又は分岐鎖を有する炭素数7～19のアルキル基である。

[0048] 化3に示す式で表される化合物としては、例えば、 $R^6 \sim R^8$ が、それぞれ、炭素数17のアルキル基であるトリイソステアリン酸トリメチロールプロパン等を挙げることができる。

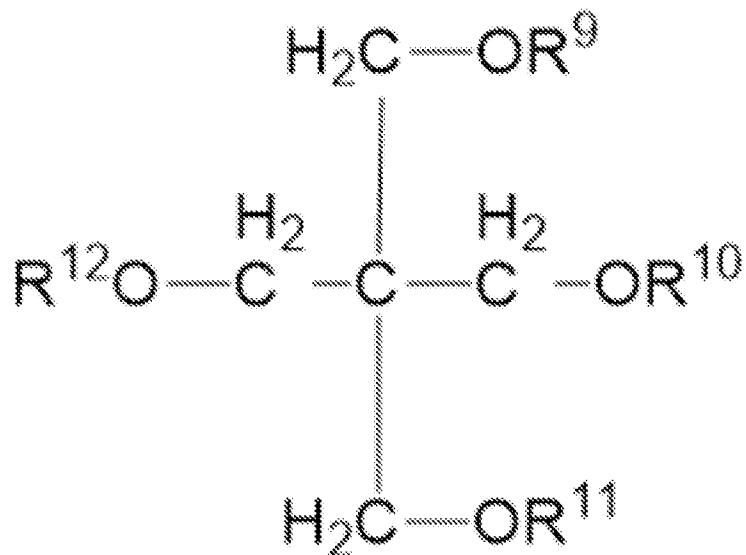
[0049] [第2のエステル油]

第2のエステル油は、4価の多価アルコールと、炭素数6以上の高級脂肪酸とのトリエステル化合物及びテトラエステル化合物からなる群から選択される少なくとも1つとすることができる。

[0050] 当該高級脂肪酸の炭素数は、例えば、24以下、22以下、20以下、18以下、16以下、又は14以下とすることができる。当該高級脂肪酸の炭素数は、例えば、8以上、10以上、12以上、又は14以上とすることができる。

[0051] 第2のエステル油は、下記化4に示す式で表される化合物及び下記化5に示す式で表される化合物からなる群から選択される少なくとも1つとすることができる。

[0052] [化4]

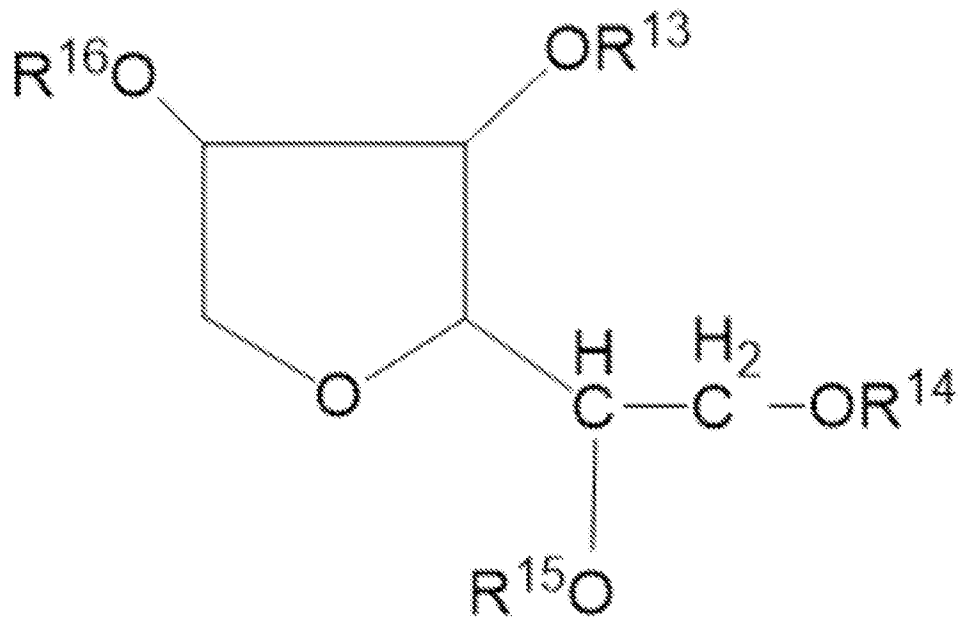


[0053] 化4に示す式において、化4に示す式で表される化合物がテトラエステル化合物である場合、 $\text{R}^9 \sim \text{R}^{12}$ は、それぞれ独立して、直鎖又は分岐鎖を有する炭素数6～12のアシル基である。化4に示す式で表される化合物がトリエステル化合物である場合、 $\text{R}^9 \sim \text{R}^{12}$ のうち3つは、それぞれ独立して、直鎖又は分岐鎖を有する炭素数6～12のアシル基であり、残り1つは水素原子である。

[0054] 化4に示す式で表される化合物としては、例えば、テトラエチルヘキサン酸ペンタエリスリチル、テトラオクタン酸ペンタエリスリット等を挙げるこ

とができる。

[0055] [化5]



[0056] 化5に示す式において、化5に示す式で表される化合物がテトラエステル化合物である場合、 $R^{13} \sim R^{16}$ は、それぞれ独立して、直鎖又は分岐鎖を有する炭素数12～22のアシル基である。化5に示す式で表される化合物がトリエステル化合物である場合、 $R^{13} \sim R^{16}$ のうち3つは、それぞれ独立して、直鎖又は分岐鎖を有する炭素数12～22のアシル基であり、残り1つは水素原子である。

[0057] 化5に示す式で表される化合物としては、例えば、 $R^{13} \sim R^{16}$ が、それぞれ、炭素数17のアシル基であるトリステアリン酸ソルビタン等を挙げることができる。

[0058] [第3のエステル油]

第3のエステル油は、炭素数16以上の高級アルコールと、アシル基の炭素数が10以上のN-アシルグルタミン酸とのジエステル化合物とすることができる。

[0059] 当該高級アルコールの炭素数は、例えば、22以下、又は20以下とすることができる。当該アシル基の炭素数は、例えば、18以下、又は16以下とすることができる。

a · s 以下、300 mPa · s 以下、又は、200 mPa · s 以下の粘度を有することができる。粘度は30℃におけるブルックフィールド型粘度計（ロータ番号No. 1～3、回転数12 rpm）で測定することができる。粘度が500 mPa · s 以下である場合、ロータ番号No. 1を用いることができる。粘度が500 mPa · s を超え、2,500 mPa · s 以下である場合、ロータ番号No. 2を用いることができる。粘度が2,500 mPa · s を超え、10,000 mPa · s 以下である場合、ロータ番号No. 3を用いることができる。成分（A2）がワックス状及び固体である場合には、上記粘度は満たされるものとする。

[0065] 成分（A2）は、成分（A）の質量に対して、5質量%以上であると好ましい。（A2）は、成分（A）の質量に対して、10質量%以上、15質量%以上、又は20質量%以上とすることができる。成分（A2）が5質量%未満であると、洗浄料組成物にとろみをもたせることが困難となる。成分（A2）は、成分（A）の質量に対して、50質量%以下、45質量%以下、40質量%以下、35質量%以下、30質量%以下、又は25質量%以下とすることができる。

[0066] 成分（A）は、イソステアリン酸をさらに含むと好ましい。イソステアリン酸は、洗浄料組成物の質量に対して、0.2質量%以上であると好ましく、0.4質量%以上であるとより好ましい。イソステアリン酸は、洗浄料組成物の質量に対して、0.6質量%以上、又は0.8質量%以上とすることができる。イソステアリン酸が0.2質量%以上であると、油性成分と界面活性剤との相溶性を高めることができる。また、洗浄料組成物に水が混合したときに粘度が上昇することを抑制することができる。イソステアリン酸は、洗浄料組成物の質量に対して、2質量%以下であると好ましく、1質量%以下であるとより好ましい。イソステアリン酸が2質量%を超えると、安定性が損なわれることがある。

[0067] [炭化水素油]

成分（A）は、炭化水素油をさらに含むことができる。炭化水素油として

は、例えば、流動パラフィン、オゾケライト、スクワラン、プリスタン、パラフィン、セレシン、スクワレン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス、*n*-ヘキサン、イソヘキサン、シクロヘキサン、*n*-オクタン、イソオクタン、*n*-ノナン、*n*-デカン、ウンデカン、イソドデカン、トリデカン、イソヘキサデカン等が挙げられる。

[0068] 炭化水素油は、洗浄料組成物の質量に対して、5質量%以下であると好ましく、3質量%以下であるとより好ましい。炭化水素油は0質量%（無含有）とすることもできる。炭化水素油が5質量%を超えると洗浄力又はとろみが低下することがある。

[0069] [シリコーン油]

成分（A）は、シリコーン油をさらに含むことができる。シリコーン油としては、ジメチルポリシロキサン、メチルヒドロジェンポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、ステアロキシメチルポリシロキサン、ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン、フルオロアルキル・ポリオキシアルキレン共変性オルガノポリシロキサン、アルキル変性オルガノポリシロキサン、末端変性オルガノポリシロキサン、フッ素変性オルガノポリシロキサン、アミノ変性オルガノポリシロキサン、シリコーンゲル、アクリルシリコーン、トリメチルシロキシケイ酸、シリコーンRTVゴム、シクロペンタシロキサン等のシリコーン化合物等が挙げられる。

[0070] シリコーン油は、洗浄料組成物の質量に対して、5質量%以下であると好ましく、3質量%以下であるとより好ましい。炭化水素油は0質量%（無含有）とすることもできる。シリコーン油が5質量%を超えると洗浄力又はとろみが低下することがある。

[0071] [その他の油性成分]

その他の油性成分としては、例えば、液体油脂、固体油脂、ワックス、ロウ、高級脂肪酸、高級アルコール、合成エステル油等を使用することができる。

[0072] 液体油脂としては、例えば、アボガド油、ツバキ油、タートル油、マカデ

ミアナッツ油、トウモロコシ油、ミンク油、オリーブ油、なたね油、卵黄油、ゴマ油、パーシク油、小麦胚芽油、サザンカ油、ヒマシ油、アマニ油、サフラワー油、綿実油、エノ油、大豆油、落花生油、茶実油、カヤ油、コメヌカ油、シナギリ油、日本キリ油、ホホバ油、胚芽油、トリグリセリン等が挙げられる。

[0073] 固体油脂としては、例えば、カカオ脂、ヤシ油、馬脂、硬化ヤシ油、パーム油、牛脂、羊脂、硬化牛脂、パーム核油、豚脂、牛骨脂、モクロウ核油、硬化油、牛脚脂、モクロウ、硬化ヒマシ油等が挙げられる。

[0074] ワックスとしては、例えば、ミツロウ、カンデリラロウ、綿ロウ、カルナウバロウ、ベイベリーロウ、イボタロウ、鯨ロウ、モンタンロウ、ヌカロウ、ラノリン、カポックロウ、酢酸ラノリン、液状ラノリン、サトウキビロウ、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラウリン酸ヘキシル、還元ラノリン、ジョジョバロウ、硬質ラノリン、セラックロウ、POEラノリンアルコールエーテル、POEラノリンアルコールアセテート、POEコレステロールエーテル、ラノリン脂肪酸ポリエチレングリコール、POE水素添加ラノリンアルコールエーテル、オゾケライト、パラフィン、セレシン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス、フィッシュアトロプシュワックス等が挙げられる。

[0075] ロウ類としては、例えば、ミツロウ、カンデリラロウ、綿ロウ、カルナウバロウ、ベイベリーロウ、イボタロウ、鯨ロウ、モンタンロウ、ヌカロウ、ラノリン、カポックロウ、酢酸ラノリン、液状ラノリン、サトウキビロウ、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラウリン酸ヘキシル、還元ラノリン、ジョジョバロウ、硬質ラノリン、セラックロウ、POEラノリンアルコールエーテル、POEラノリンアルコールアセテート、POEコレステロールエーテル、ラノリン脂肪酸ポリエチレングリコール、POE水素添加ラノリンアルコールエーテル等が挙げられる。

[0076] 高級脂肪酸としては、例えば、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、オレイン酸、ウンデシレン酸、トール酸、イソ

ステアリン酸、リノール酸、リノレイン酸、エイコサペンタエン酸（E P A）、ドコサヘキサエン酸（D H A）等が挙げられる。

[0077] 高級アルコールとしては、例えば、直鎖アルコール（例えば、ラウリルアルコール、セチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、ミリスチルアルコール、オレイルアルコール、セトステアリルアルコール等）；分枝鎖アルコール（例えば、モノステアリルグリセリンエーテル（バチルアルコール）、2-デシルテトラデシノール、ラノリンアルコール、コレステロール、フィトステロール、ヘキシルドデカノール、イソステアリルアルコール、オクチルドデカノール等）等を使用することができる。

[0078] 合成エステル油としては、ミリスチン酸イソプロピル、オクタン酸セチル、ミリスチン酸オクチルドデシル、パルミチン酸イソプロピル、ステアリン酸ブチル、ラウリン酸ヘキシル、ミリスチン酸ミリスチル、オレイン酸デシル、ジメチルオクタン酸ヘキシルデシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、酢酸ラノリン、ステアリン酸イソセチル、イソステアリン酸イソセチル、12-ヒドロキシステアリン酸コレステリル、ジ-2-エチルヘキサン酸エチレングリコール、ジペンタエリスリトール脂肪酸エステル、モノイソステアリン酸N-アルキルグリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、リンゴ酸ジイソステアリル、ジ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセリン、トリ-2-エチルヘキサン酸トリメチロールプロパン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、テトラ-2-エチルヘキサン酸ペンタエリスリトール、トリ-2-エチルヘキサン酸グリセリン、トリオクタン酸グリセリン、トリイソパルミチン酸グリセリン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、セチル2-エチルヘキサノエート、2-エチルヘキシルパルミテート、トリミリスチン酸グリセリン、トリ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセライド、ヒマシ油脂肪酸メチルエステル、オレイン酸オレイル、アセトグリセライド、パルミチン酸2-ヘプチルウンデシル、アジピン酸ジイソブチル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸-2-オクチルドデシルエステル、アジピン酸ジ-2-ヘプチルウンデシル、エチルラウレート、セバシン酸ジ-2

ーエチルヘキシル、ミリスチン酸2ーヘキシルデシル、パルミチン酸2ーヘキシルデシル、アジピン酸2ーヘキシルデシル、セバシン酸ジイソプロピル、コハク酸2ーエチルヘキシル、クエン酸トリエチル等が挙げられる。

[0079] 成分(A)は、洗浄料組成物の質量に対して、50質量%以上であると好ましく、55質量%以上であるとより好ましい。成分(A)は、洗浄料組成物の質量に対して、60質量%以上、又は65質量%以上とすることができる。成分(A)が50質量%未満であると、洗浄力が低下してしまう。成分(A)は、洗浄料組成物の質量に対して、85質量%以下であると好ましく、80質量%以下であるとより好ましい。成分(A)は、洗浄料組成物の質量に対して、75質量%以下、70質量%以下、又は65質量%以下とすることができる。成分(A)が85質量%を超えると、透明性が低下すると共に、水との混合時に白濁してしまう。

[0080] [(B)界面活性剤]

界面活性剤は、成分(A)との相溶性を有している。本開示にいう成分(A)と成分(B)との相溶性とは、25℃で、成分(A1)、成分(A2)及び成分(B)とを質量比1:1:1で混合した混合物が透明であることをいう。この混合物の透明とは、分光色彩計で測定したL値によって判断することができる。例えばL値が95以上を透明とすることができる。

[0081] 界面活性剤としては、例えば、ポリオキシアルキレン脂肪酸エステルを挙げることができる。ポリオキシアルキレン脂肪酸エステルにおけるオキシアルキレン基の平均付加モル数は、4以上であると好ましく、5以上であるとより好ましい。オキシアルキレン基の平均付加モル数は、20以下であると好ましく、9以下であるとより好ましい。平均付加モル数がこの範囲であると、成分(A)との相溶性を高めることができる。ポリオキシアルキレン脂肪酸エステルにおける脂肪酸由来の炭化水素基の炭素数は、12以上であると好ましい。脂肪酸由来の炭化水素基の炭素数は、22以下であると好ましく、18以下であるとより好ましい。炭素数がこの範囲であると、成分(A)との相溶性を高めることができる。

- [0082] ポリオキシアルキレン基は、例えば、ポリオキシエチレン基（POE）（ポリエチレングリコール（PEG））とすることができる。
- [0083] 界面活性剤は、それぞれ、8以上、好ましくは10以上のHLB（Hydrophilic-Lipophilic Balance）を有すると好ましい。界面活性剤は、それぞれ、14以下のHLBを有すると好ましい。洗浄料組成物が複数の界面活性剤を有する場合、各界面活性剤が上記数値のHLBを有すると好ましい。
- [0084] 界面活性剤としては、例えば、ヤシ油脂肪酸PEG-7グリセリル（HLB=14）、イソステアリン酸PEG-8グリセリル（HLB=10）、イソステアリン酸PEG-20グリセリル（HLB=14）、トリイソステアリン酸PEG-20グリセリル（HLB=8）等を挙げることができる。
- [0085] 成分（B）は、洗浄料組成物の質量に対して、12質量%以上であると好ましく、15質量%以上であると好ましく、20質量%以上であるとより好ましい。成分（B）は、洗浄料組成物の質量に対して、25質量%以上、又は30質量%以上とすることができる。成分（B）が12質量%未満であると、組成物の透明性が低下すると共に、水と混合したときに白濁化してしまう。成分（B）は、洗浄料組成物の質量に対して、45質量%以下であると好ましく、40質量%以下であるとより好ましい。成分（B）は、洗浄料組成物の質量に対して、35質量%以下、又は30質量%以下とすることができる。成分（B）が45質量%を超えると、相対的に油性成分が減少し、洗浄力が低下してしまう。
- [0086] [油性ゲル化剤]
- 本開示の洗浄料組成物における油性ゲル化剤の量は、洗浄料組成物の質量に対して、0.5質量%以下であると好ましく、0.2質量%以下であるとより好ましく、0質量%（無含有）であるとさらに好ましい。油性ゲル化剤が0.5質量%を超えると、組成物の透明性が低下することある。また、油性ゲル化剤を使用しないことにより、加熱せずに、常温で洗浄料組成物を製造することができる。
- [0087] 油性ゲル化剤としては、例えば、パルミチン酸デキストリン、（パルミチ

ン酸／エチルヘキサン酸) デキストリン、ミリスチン酸デキストリン、ジブチラウロイルグルタミド、ポリアミドー8、(ベヘン酸／エイコサン二酸) グリセリル、トリ(カプリル酸／カプリン酸) グリセリルポリウレタンー79、(ヒマシ油／IPDI) コポリマー、ベヘニン酸グリセリル、ビスエチルヘキシルビスオレイルピロメリタミド、シリカ、ポリグリセリルー20ーオクタデカベヘン酸／ヒドロキシステアリン酸等を挙げることができる。

[0088] [水]

本開示の洗浄料組成物は、水をさらに含むことができる。水としては、化粧料、医薬部外品等に使用される水を使用することができ、例えば、精製水、イオン交換水、水道水等を使用することができる。

[0089] 水の含有率は、洗浄料組成物の質量に対して、0.1質量%以上、0.3質量%以上、又は0.5質量%以上とすることができる。洗浄料組成物が水を含むことにより、水溶性成分を添加することができる。水の含有率は、洗浄料組成物の質量に対して、5質量%以下であると好ましく、2質量%以下であるとより好ましく、1質量%以下であるとさらに好ましい。水が5質量%を超えると経時安定性を担保できないことがある。

[0090] [粘度]

本開示の洗浄料組成物は、30℃において25 mPa・s以上、好ましくは30 mPa・s以上、より好ましくは40 mPa・s以上の粘度を有すると好ましい。粘度が25 mPa・s未満であると、洗浄料組成物がとろみを有することができない。洗浄料組成物は、30℃において3,000 mPa・s以下、好ましくは200 mPa・s以下、より好ましくは100 mPa・s以下の粘度を有すると好ましい。粘度は30℃におけるブルックフィールド型粘度計(ロータ番号1~4、回転数60 rpm)で測定することができる。ロータ番号の選択は上記と同様である。

[0091] [外観]

本開示の洗浄料組成物は透明性を有している。本開示の洗浄料組成物は、洗浄料組成物1質量部に対して、0.2~0.4質量部の水と混合しても白

濁せず、透明性を維持することができる。

[0092] 本開示の洗浄料組成物は、油性成分を主成分としているため、油性の被洗浄物に対して高い洗浄性を有している。例えば、本開示の洗浄料組成物は、油性化粧料に対して高い洗浄性を有している。

[0093] 本開示の洗浄料組成物は、水と混合しても乳化作用等により白濁が生じることが抑制されている。これにより、水と混合しても洗浄性の低下を抑制することができる。また、使用者は、洗浄料組成物の白濁化による変性のイメージをもたずに洗浄料組成物を使用することができる。したがって、本開示の洗浄料組成物は、手が濡れた状態で使用する状況に適用することができる。

[0094] 本開示の洗浄料組成物は、ある程度の粘性（とろみ）を有している。これにより、本開示の洗浄料組成物は手に採って使用しやすい。また、とろみによって、本開示の洗浄料組成物は、洗浄部分（例えば肌）に密着させることができると共に、より多くの洗浄料で洗浄することができるので、洗浄効果を高めることができる。また、本開示の洗浄料組成物で洗浄部分（例えば肌）をこすってもとろみによって洗浄部分へのダメージを低減することができる。

[0095] [その他]

本開示の洗浄料組成物は、本開示の効果を阻害しない範囲において、他の成分、例えば、粉末、増粘剤、上記以外の界面活性剤、水溶性アルコール、保湿剤、皮膜剤、油溶性紫外線吸収剤、水溶性紫外線吸収剤、金属イオン封鎖剤、アミノ酸、有機アミン、高分子エマルジョン、pH調整剤、皮膚栄養剤、ビタミン、酸化防止剤、酸化防止助剤、香料等を必要に応じて適宜含有することができる。

[0096] 粉末としては、例えば、無機粉末（例えば、タルク、カオリン、雲母、絹雲母（セリサイト）、白雲母、金雲母、合成雲母、紅雲母、黒雲母、リチア雲母、焼成雲母、焼成タルク、パーミキュライト、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸カルシウム、ケイ

酸マグネシウム、ケイ酸ストロンチウム、タングステン酸金属塩、マグネシウム、シリカ、ゼオライト、ガラス、硫酸バリウム、焼成硫酸カルシウム(焼セッコウ)、リン酸カルシウム、フッ素アパタイト、ヒドロキシアパタイト、セラミックパウダー、金属石鹼(例えば、ミリスチン酸亜鉛、パルミチン酸カルシウム、ステアリン酸アルミニウム)、窒化ホウ素等)；有機粉末(例えば、ポリアミド樹脂粉末(ナイロン粉末)、ポリエチレン粉末、ポリメタクリル酸メチル粉末、ポリスチレン粉末、スチレンとアクリル酸の共重合体樹脂粉末、ベンゾグアナミン樹脂粉末、ポリ四フッ化エチレン粉末、セルロース粉末、シリコーン樹脂粉末、シルクパウダー、ウールパウダー、ウレタンパウダー等)；無機白色顔料(例えば、二酸化チタン、酸化亜鉛等)；無機赤色系顔料(例えば、酸化鉄(ベンガラ)、チタン酸鉄等)；無機褐色系顔料(γ-酸化鉄等)、無機黄色系顔料(黄酸化鉄、黄土等)、無機黒色系顔料(黒酸化鉄、カーボンブラック、低次酸化チタン等)、無機紫色系顔料(例えば、マンガンバイオレット、コバルトバイオレット等)；無機緑色系顔料(例えば、酸化クロム、水酸化クロム、チタン酸コバルト等)；無機青色系顔料(例えば、群青、紺青等)；パール顔料(例えば、酸化チタンコーテッドマイカ、酸化チタンコーテッドオキシ塩化ビスマス、酸化チタンコーテッドタルク、着色酸化チタンコーテッドマイカ、オキシ塩化ビスマス、魚鱗箔等)；金属粉末顔料(例えば、アルミニウムパウダー、銅パウダー等)；ジルコニウム、バリウム又はアルミニウムレーキ等の有機顔料(例えば、赤色201号、赤色202号、赤色204号、赤色205号、赤色220号、赤色226号、赤色228号、赤色405号、橙色203号、橙色204号、黄色205号、黄色401号、及び青色404号などの有機顔料、赤色3号、赤色104号、赤色106号、赤色227号、赤色230号、赤色401号、赤色505号、橙色205号、黄色4号、黄色5号、黄色202号、黄色203号、緑色3号及び青色1号等)；天然色素(例えば、クロロフィル、β-カロチン等)；ワックス粉末(例えば、カルナバワックス粉末等)；デンプン粉末(例えば、トウモロコシデンプン粉末、コメデンプン粉末)

等)等を使用することができる。

[0097] 増粘剤としては、例えば、アラビアガム、カラギーナン、カラヤガム、トラガカントガム、キャロブガム、クインスシード(マルメロ)、カゼイン、デキストリン、ゼラチン、ペクチン酸ナトリウム、アルギン酸ナトリウム、メチルセルロース、エチルセルロース、カルボキシメチルセルロース(CMC)、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリビニルアルコール(PVA)、ポリビニルメチルエーテル(PVM)、PVP(ポリビニルピロリドン)、ポリアクリル酸ナトリウム、カルボキシビニルポリマー、ローカストビーンガム、グアガム、タマリントガム、ジアルキルジメチルアンモニウム硫酸セルロース、キサンタンガム、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ベントナイト、ヘクトライト、ケイ酸アルミニウムマグネシウム(ビーガム)、ラポナイト、無水ケイ酸、タウレート系合成高分子、アクリレート系合成高分子等が挙げられる。

[0098] アニオン性界面活性剤としては、例えば、脂肪酸セッケン(例えば、ラウリン酸ナトリウム、パルミチン酸ナトリウム等)；高級アルキル硫酸エステル塩(例えば、ラウリル硫酸ナトリウム、ラウリル硫酸カリウム等)；アルキルエーテル硫酸エステル塩(例えば、POE-ラウリル硫酸トリエタノールアミン、POE-ラウリル硫酸ナトリウム等)；N-アシルサルコシン酸(例えば、ラウロイルサルコシナトリウム等)；高級脂肪酸アミドスルホン酸塩(例えば、N-ステアロイル-N-メチルタウリンナトリウム、N-ミリストール-N-メチルタウリンナトリウム、ヤシ油脂肪酸メチルタウリンナトリウム、ラウリルメチルタウリッドナトリウム等)；リン酸エステル塩(POE-オレイルエーテルリン酸ナトリウム、POE-ステアリルエーテルリン酸等)；スルホコハク酸塩(例えば、ジ-2-エチルヘキシルスルホコハク酸ナトリウム、モノラウロイルモノエタノールアミドポリオキシエチレンスルホコハク酸ナトリウム、ラウリルポリプロピレングリコールスルホコハク酸ナトリウム等)；アルキルベンゼンスルホン酸塩(例えば、リニアドデシルベンゼンスルホン酸ナトリウム、リニアドデシルベンゼンスルホ

ン酸トリエタノールアミン、リニアドデシルベンゼンスルホン酸等) ; 高級脂肪酸エステル硫酸エステル塩 (例えば、硬化ヤシ油脂肪酸グリセリン硫酸ナトリウム等) ; N-アシルグルタミン酸塩 (例えば、N-ラウロイルグルタミン酸モノナトリウム、N-ステアロイルグルタミン酸ジナトリウム、N-ミリストイル-L-グルタミン酸モノナトリウム等) ; 硫酸化油 (例えば、ロート油等) ; POE-アルキルエーテルカルボン酸 ; POE-アルキルアリルエーテルカルボン酸塩 ; α -オレフィンスルホン酸塩 ; 高級脂肪酸エステルスルホン酸塩 ; 二級アルコール硫酸エステル塩 ; 高級脂肪酸アルキロールアミド硫酸エステル塩 ; ラウロイルモノエタノールアミドコハク酸ナトリウム ; N-パルミトイルアスパラギン酸ジトリエタノールアミン ; カゼインナトリウム等を使用することができる。

[0099] カチオン界面活性剤としては、例えば、アルキルトリメチルアンモニウム塩 (例えば、塩化ステアリルトリメチルアンモニウム、塩化ラウリルトリメチルアンモニウム等) ; アルキルピリジニウム塩 (例えば、塩化セチルピリジニウム等) ; ジアルキルジメチルアンモニウム塩 (例えば、塩化ジステアリルジメチルアンモニウム) ; 塩化ポリ (N, N'-ジメチル-3, 5-メチレンピペリジニウム) ; アルキル四級アンモニウム塩 ; アルキルジメチルベンジルアンモニウム塩 ; アルキルイソキノリニウム塩 ; ジアルキルモリホニウム塩 ; POE-アルキルアミン ; アルキルアミン塩 ; ポリアミン脂肪酸誘導体 ; アミルアルコール脂肪酸誘導体 ; 塩化ベンザルコニウム ; 塩化ベンゼトニウム等が挙げられる。

[0100] 両性界面活性剤としては、例えば、イミダゾリン系両性界面活性剤 (例えば、2-ウンデシル-N, N, N-(ヒドロキシエチルカルボキシメチル)-2-イミダゾリンナトリウム、2-ココイル-2-イミダゾリニウムヒドロキサイド-1-カルボキシエチロキシ2ナトリウム塩等) ; ベタイン系界面活性剤 (例えば、2-ヘプタデシル-N-カルボキシメチル-N-ヒドロキシエチルイミダゾリニウムベタイン、ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン、アルキルベタイン、アミドベタイン、スルホベタイン等) 等が挙げられ

る。

[0101] 親水性非イオン界面活性剤としては、例えば、POE-ソルビタン脂肪酸エステル（例えば、POE-ソルビタンモノオレート、POE-ソルビタンモノステアレート、POE-ソルビタンモノオレート、POE-ソルビタンテトラオレート等）；POE-ソルビット脂肪酸エステル（例えば、POE-ソルビットモノラウレート、POE-ソルビットモノオレート、POE-ソルビットペンタオレート、POE-ソルビットモノステアレート等）；POE-グリセリン脂肪酸エステル（例えば、POE-グリセリンモノステアレート、POE-グリセリンモノイソステアレート、POE-グリセリントリイソステアレート等のPOE-モノオレート等）；POE-脂肪酸エステル（例えば、POE-ジステアレート、POE-モノジオレート、ジステアリン酸エチレングリコール等）；POE-アルキルエーテル（例えば、POE-ラウリルエーテル、POE-オレイルエーテル、POE-ステアリルエーテル、POE-ベヘニルエーテル、POE-2-オクチルドデシルエーテル、POE-コレスタノールエーテル等）；プルロニック型（例えば、プルロニック等）；POE・POP-アルキルエーテル（例えば、POE・POP-セチルエーテル、POE・POP-2-デシルテトラデシルエーテル、POE・POP-モノブチルエーテル、POE・POP-水添ラノリン、POE・POP-グリセリンエーテル等）；テトラPOE・テトラPOP-エチレンジアミン縮合物（例えば、テトロニック等）；POE-ヒマシ油硬化ヒマシ油誘導体（例えば、POE-ヒマシ油、POE-硬化ヒマシ油、POE-硬化ヒマシ油モノイソステアレート、POE-硬化ヒマシ油トリイソステアレート、POE-硬化ヒマシ油モノピログルタミン酸モノイソステアリン酸ジエステル、POE-硬化ヒマシ油マレイン酸等）；POE-ミツロウ・ラノリン誘導体（例えば、POE-ソルビットミツロウ等）；アルカノールアミド（例えば、ヤシ油脂肪酸ジエタノールアミド、ラウリン酸モノエタノールアミド、脂肪酸イソプロパノールアミド等）；POE-プロピレングリコール脂肪酸エステル；POE-アルキルアミン；POE

ー脂肪酸アミド；シヨ糖脂肪酸エステル；アルキルエトキシジメチルアミノキシド；トリオレイルリン酸等が挙げられる。

[0102] 親油性非イオン界面活性剤としては、例えば、ソルビタン脂肪酸エステル（例えば、ソルビタンモノオレエート、ソルビタンモノイソステアレート、ソルビタンモノラウレート、ソルビタンモノパルミテート、ソルビタンモノステアレート、ソルビタンセスキオレエート、ソルビタントリオレエート、ペンター2ーエチルヘキシル酸ジグリセロールソルビタン、テトラー2ーエチルヘキシル酸ジグリセロールソルビタン等）；グリセリンポリグリセリン脂肪酸（例えば、モノ綿実油脂肪酸グリセリン、モノエルカ酸グリセリン、セスキオレイン酸グリセリン、モノステアリン酸グリセリン、 α, α' ーオレイン酸ピログルタミン酸グリセリン、モノステアリン酸グリセリンリンゴ酸等）；プロピレングリコール脂肪酸エステル（例えば、モノステアリン酸プロピレングリコール等）；硬化ヒマシ油誘導体；グリセリンアルキルエーテル等が挙げられる。

[0103] 水溶性アルコールとしては、例えば、低級アルコール、多価アルコール、多価アルコール重合体、2価のアルコールアルキルエーテル類、2価アルコールアルキルエーテル類、2価アルコールエーテルエステル、グリセリンモノアルキルエーテル、糖アルコール、単糖、オリゴ糖、多糖およびそれらの誘導体等から選ばれる少なくとも1つを挙げることができる。

[0104] 低級アルコールとしては、例えば、エタノール、プロパノール、イソプロパノール、イソブチルアルコール、*t*ーブチルアルコール等が挙げられる。

[0105] 多価アルコールとしては、例えば、2価のアルコール（例えば、エチレングリコール、プロピレングリコール、トリメチレングリコール、1, 2ーブチレングリコール、1, 3ーブチレングリコール、テトラメチレングリコール、2, 3ーブチレングリコール、ペンタメチレングリコール、2ーブテンー1, 4ージオール、ヘキシレングリコール、オクチレングリコール等）；3価のアルコール（例えば、グリセリン、トリメチロールプロパン等）；4価アルコール（例えば、1, 2, 6ーヘキサントリオール等のペンタエリス

リトール等) ; 5 価アルコール (例えば、キシリトール等) ; 6 価アルコール (例えば、ソルビトール、マンニトール等) ; 多価アルコール重合体 (例えば、ジエチレングリコール、ジプロピレングリコール、トリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、テトラエチレングリコール、ジグリセリン、ポリエチレングリコール、トリグリセリン、テトラグリセリン、ポリグリセリン等) ; 2 価のアルコールアルキルエーテル類 (例えば、エチレングリコールモノメチルエーテル、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、エチレングリコールモノフェニルエーテル、エチレングリコールモノヘキシルエーテル、エチレングリコールモノ2-メチルヘキシルエーテル、エチレングリコールイソアミルエーテル、エチレングリコールベンジルエーテル、エチレングリコールイソプロピルエーテル、エチレングリコールジメチルエーテル、エチレングリコールジエチルエーテル、エチレングリコールジブチルエーテル等) ; 2 価アルコールアルキルエーテル類 (例えば、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ジエチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールジメチルエーテル、ジエチレングリコールジエチルエーテル、ジエチレングリコールブチルエーテル、ジエチレングリコールメチルエチルエーテル、トリエチレングリコールモノメチルエーテル、トリエチレングリコールモノエチルエーテル、プロピレングリコールモノメチルエーテル、プロピレングリコールモノエチルエーテル、プロピレングリコールモノブチルエーテル、プロピレングリコールイソプロピルエーテル、ジプロピレングリコールメチルエーテル、ジプロピレングリコールエチルエーテル、ジプロピレングリコールブチルエーテル等) ; 2 価アルコールエーテルエステル (例えば、エチレングリコールモノメチルエーテルアセテート、エチレングリコールモノエチルエーテルアセテート、エチレングリコールモノブチルエーテルアセテート、エチレングリコールモノフェニルエーテルアセテート、エチレングリコールジアジベート、エチレングリコールジサクシネート、ジエチレングリコールモノエチルエーテルアセテート、ジエ

チレングリコールモノブチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノエチルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノプロピルエーテルアセテート、プロピレングリコールモノフェニルエーテルアセテート等) ; グリセリンモノアルキルエーテル (例えば、キミルアルコール、セラキルアルコール、バチルアルコール等) ; 糖アルコール (例えば、ソルビトール、マルチトール、マルトトリオース、マンニトール、ショ糖、エリトリトール、グルコース、フルクトース、デンプン分解糖、マルトース、キシリトール、デンプン分解糖還元アルコール等) ; グリコリド ; テトラヒドロフルフリルアルコール ; P O E - テトラヒドロフルフリルアルコール ; P O P - ブチルエーテル ; P O P · P O E - ブチルエーテル ; トリポリオキシプロピレングリセリンエーテル ; P O P - グリセリンエーテル ; P O P - グリセリンエーテルリン酸 ; P O P · P O E - ペンタンエリスリトールエーテル、ポリグリセリン等が挙げられる。

[0106] 単糖としては、例えば、三炭糖 (例えば、D-グリセリルアルデヒド、ジヒドロキシアセトン等)、四炭糖 (例えば、D-エリトロース、D-エリトルロース、D-トレオース、エリスリトール等)、五炭糖 (例えば、L-アラビノース、D-キシロース、L-リキソース、D-アラビノース、D-リボース、D-リブロース、D-キシルロース、L-キシルロース等)、六炭糖 (例えば、D-グルコース、D-タロース、D-プシコース、D-ガラクトース、D-フルクトース、L-ガラクトース、L-マンノース、D-タガトース等)、七炭糖 (例えば、アルドヘプトース、ヘプツロース等)、八炭糖 (例えば、オクツロース等)、デオキシ糖 (例えば、2-デオキシーD-リボース、6-デオキシーL-ガラクトース、6-デオキシーL-マンノース等)、アミノ糖 (例えば、D-グルコサミン、D-ガラクトサミン、シアル酸、アミノウロン酸、ムラミン酸等)、ウロン酸 (例えば、D-グルクロン酸、D-マンヌロン酸、L-グルロン酸、D-ガラクツロン酸、L-イズロン酸等) 等から選ばれる少なくとも1つを挙げるができる。

- [0107] オリゴ糖としては、例えば、ショ糖、グンチアノース、ウンベリフェロース、ラクトース、プランテオース、イソリクノース類、 α , α -トレハロース、ラフィノース、リクノース類、ウンビリシン、スタキオース、ベルバスコース類等から選ばれる少なくとも1つを挙げることができる。
- [0108] 多糖としては、例えば、セルロース、クインスシード、コンドロイチン硫酸、デンプン、ガラクトタン、デルマタン硫酸、グリコーゲン、アラビアガム、ヘパラン硫酸、ヒアルロン酸、トラガントガム、ケラタン硫酸、コンドロイチン、キサンタンガム、ムコイチン硫酸、グアガム、デキストラン、ケラト硫酸、ローカストビーンガム、サクシノグルカン、カロニン酸等から選ばれる少なくとも1つを挙げることができる。
- [0109] その他のポリオールとしては、例えば、ポリオキシエチレンメチルグルコシド（グルカムE-10）、ポリオキシプロピレンメチルグルコシド（グルカムP-10）等から選ばれる少なくとも1つを挙げることができる。
- [0110] 天然の水溶性ポリマーとしては、例えば、植物系高分子（例えば、アラビアガム、トラガカントガム、ガラクトタン、グアガム、キャロブガム、カラヤガム、カラギーナン、ペクチン、カンテン、クインスシード（マルメロ）、アルゲコロイド（カッソウエキス）、デンプン（コメ、トウモロコシ、バレイショ、コムギ）、グリチルリチン酸）；微生物系高分子（例えば、キサンタンガム、デキストラン、サクシノグルカン、プルラン等）；動物系高分子（例えば、コラーゲン、カゼイン、アルブミン、ゼラチン等）等が挙げられる。
- [0111] 半合成の水溶性ポリマーとしては、例えば、デンプン系高分子（例えば、カルボキシメチルデンプン、メチルヒドロキシプロピルデンプン等）；セルロース系高分子（メチルセルロース、エチルセルロース、メチルヒドロキシプロピルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、セルロース硫酸ナトリウム、ヒドロキシプロピルセルロース、カルボキシメチルセルロース、カルボキシメチルセルロースナトリウム、結晶セルロース、セルロース末等）；アルギン酸系高分子（例えば、アルギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレ

ングリコールエステル等)等が挙げられる。

[0112] 保湿剤としては、例えば、ポリエチレングリコール、プロピレングリコール、グリセリン、1,3-ブチレングリコール、キシリトール、ソルビトール、マルチトール、コンドロイチン硫酸、ヒアルロン酸、ムコイチン硫酸、カロニン酸、アテロコラーゲン、コレステリル-12-ヒドロキシステアレート、乳酸ナトリウム、胆汁酸塩、d-1-ピロリドンカルボン酸塩、アルキレンオキシド誘導体、短鎖可溶性コラーゲン、ジグリセリン(EO)PO付加物、イザヨイバラ抽出物、セイヨウノコギリソウ抽出物、メリロート抽出物等が挙げられる。

[0113] 皮膜剤としては、例えば、アニオン性皮膜剤(例えば、(メタ)アクリル酸/(メタ)アクリル酸エステル共重合体、メチルビニルエーテル/無水マレイン酸高重合体等)、カチオン性皮膜剤(例えば、カチオン化セルロース、ジメチルジアリルアンモニウムクロライド重合体、ジメチルジアリルアンモニウムクロライド/アクリルアミド共重合体等)、ノニオン性皮膜剤(例えば、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、ポリ酢酸ビニル、ポリアクリル酸エステル共重合体、(メタ)アクリルアミド、高分子シリコーン、シリコーンレジン、トリメチルシロキシケイ酸等)が挙げられる。

[0114] 水溶性紫外線吸収剤としては、例えば、ベンゾフェノン系紫外線吸収剤(例えば、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸塩等)、ベンジリデンショウノウ系紫外線吸収剤(ベンジリデンショウノウスルホン酸、テレフタリリデンジショウノウスルホン酸等)、フェニルベンゾイミダゾール系紫外線吸収剤(フェニルベンゾイミダゾールスルホン酸等)等が挙げられる。

[0115] 金属イオン封鎖剤としては、例えば、1-ヒドロキシエタン-1,1-ジフォスホン酸、1-ヒドロキシエタン-1,1-ジフォスホン酸四ナトリウム塩、エデト酸二ナトリウム、エデト酸三ナトリウム、エデト酸四ナトリウム、クエン酸ナトリウム、ポリリン酸ナトリウム、メタリン酸ナトリウム、グルコン酸、リン酸、クエン酸、アスコルビン酸、コハク酸、エデト酸、エ

チレンジアミンヒドロキシエチル三酢酸3ナトリウム等が挙げられる。

- [0116] アミノ酸としては、例えば、中性アミノ酸（例えば、スレオニン、システイン等）；塩基性アミノ酸（例えば、ヒドロキシリジン等）等が挙げられる。また、アミノ酸誘導体として、例えば、アシルサルコシンナトリウム(ラウロイルサルコシンナトリウム)、アシルグルタミン酸塩、アシル β -アラニンナトリウム、グルタチオン、ピロリドンカルボン酸等が挙げられる。
- [0117] 有機アミンとしては、例えば、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、トリエタノールアミン、モルホリン、トリイソプロパノールアミン、2-アミノ-2-メチル-1,3-プロパンジオール、2-アミノ-2-メチル-1-プロパノール等が挙げられる。
- [0118] 高分子エマルジョンとしては、例えば、アクリル樹脂エマルジョン、ポリアクリル酸エチルエマルジョン、アクリルレジン液、ポリアクリルアルキルエステルエマルジョン、ポリ酢酸ビニル樹脂エマルジョン、天然ゴムラテックス等が挙げられる。
- [0119] pH調整剤としては、例えば、乳酸-乳酸ナトリウム、クエン酸-クエン酸ナトリウム、コハク酸-コハク酸ナトリウム等の緩衝剤等が挙げられる。
- [0120] ビタミン類としては、例えば、ビタミンA、B1、B2、B6、C、E及びその誘導体、パントテン酸及びその誘導体、ビオチン等が挙げられる。
- [0121] 酸化防止剤としては、例えば、トコフェロール類、ジブチルヒドロキシルエン、ブチルヒドロキシアニソール、没食子酸エステル類等が挙げられる。
- [0122] 酸化防止助剤としては、例えば、リン酸、クエン酸、アスコルビン酸、マレイン酸、マロン酸、コハク酸、フマル酸、ケファリン、ヘキサメタフォスフェイト、フィチン酸、エチレンジアミン四酢酸等が挙げられる。
- [0123] その他の配合可能成分としては、例えば、防腐剤（エチルパラベン、ブチルパラベン、クロルフェネシン、フェノキシエタノール等）；消炎剤（例えば、グリチルリチン酸誘導体、グリチルレチン酸誘導体、サリチル酸誘導体、ヒノキチオール、酸化亜鉛、アラントイン等）；美白剤（例えば、胎盤抽

出物、ユキノシタ抽出物、アルブチン等) ; 各種抽出物 (例えば、オウバク、オウレン、シコン、シャクヤク、センブリ、バーチ、セージ、ビワ、ニンジン、アロエ、ゼニアオイ、アイリス、ブドウ、ヨクイニン、ヘチマ、ユリ、サフラン、センキュウ、ショウキョウ、オトギリソウ、オノニス、ニンニク、トウガラシ、チンピ、トウキ、海藻等)、賦活剤 (例えば、ローヤルゼリー、感光素、コレステロール誘導体等) ; 血行促進剤 (例えば、ノニル酸ワニリルアミド、ニコチン酸ベンジルエステル、ニコチン酸 β -ブトキシエチルエステル、カプサイシン、ジンゲロン、カンタリスチンキ、イクタモール、タンニン酸、 α -ボルネオール、ニコチン酸トコフェロール、イノシトールヘキサニコチネート、シ克蘭デレート、シンナリジン、トラゾリン、アセチルコリン、ベラパミル、セファランチン、 γ -オリザノール等) ; 抗脂漏剤 (例えば、硫黄、チアントール等) ; 抗炎症剤 (例えば、トラネキサム酸、チオタウリン、ヒポタウリン等) 等が挙げられる。

[0124] さらに、本開示の組成物は、カフェイン、タンニン、ベラパミル、トラネキサム酸及びその誘導体、甘草、カリン、イチヤクソウ等の各種生薬抽出物、酢酸トコフェロール、グリチルレジン酸、グリチルリチン酸及びその誘導体又はその塩等の薬剤、ビタミンC、アスコルビン酸リン酸マグネシウム、アスコルビン酸グルコシド、アルブチン、コウジ酸等の美白剤、アルギニン、リジン等のアミノ酸及びその誘導体、も適宜含有することができる。

[0125] [製造方法]

本開示の洗浄料組成物の製造方法について説明する。本開示の洗浄料組成物は、公知の方法で製造することができる。例えば、各成分を混合することによって本開示の洗浄料組成物を製造することができる。

[0126] 本開示の洗浄料組成物において、相構造等が、組成によって直接特定することが困難であるか、又はおよそ実際的ではない場合がある。このような場合には、本開示の洗浄料組成物は、その製造方法によって特定することが許されるべきものである。

[0127] [使用方法]

本開示の洗浄料組成物は、肌の洗浄、特に洗顔料、メイク落とし等、に適用することができる。本開示の洗浄料組成物は、例えば、洗浄料組成物を直接肌に塗布して肌を洗浄し、その後水で洗い流して使用することができる。

実施例

[0128] 本開示の洗浄料組成物について、以下に例を挙げて説明する。しかしながら、本開示の洗浄料組成物以下の例に限定されるものではない。各表に示す各成分の含有率の単位は質量%である。

[0129] [粘度]

粘度は30℃におけるブルックフィールド型粘度計（ロータ番号No. 1～4、回転数60rpm）で測定した。粘度が500mPa・s以下である場合、ロータ番号No. 1を用いた。粘度が500mPa・sを超え、2,500mPa・s以下である場合、ロータ番号No. 2を用いた。粘度が2,500mPa・sを超え、10,000mPa・s以下である場合、ロータ番号No. 3を用いた。粘度が10,000mPa・sを超え、50,000mPa・s以下である場合、ロータ番号No. 4を用いた。

[0130] [相溶性]

各試験例における（A1）第1の油分、（A2）第2の油分及び（B）界面活性剤を質量比1：1：1で25℃で混合して、混合直後の混合物の外観によって、成分（A1）、成分（A2）及び成分（B）の相溶性を評価した。透明性は分光色彩計（日本電色工業株式会社製 spectrometer SE7700）の透過モードでL値を測定し、L値が95以上を透明と評価し、95未満を不透明と評価した。

A：混合物の外観が透明であった（油分と界面活性剤との相溶性が良かった）；

B：混合物の外観が不透明であった（油分と界面活性剤との相溶性が悪かった）。

[0131] [外観]

25℃の環境において洗浄料組成物の外観が透明性を有するかについて評

価した。

A：外観が透明性を有していた；

B：洗浄料組成物に分離が生じていた。

[0132] [白濁化の有無]

洗浄料組成物 1 質量部に対して水 0.3 質量部を混合したときに洗浄料組成物に白濁化が生じるかについて評価した。

A：洗浄料組成物が白濁しなかった；

B：洗浄料組成物が白濁した。

[0133] [使用時の厚み]

乾いた手で洗浄料組成物を取り、手のひら上に洗浄料組成物をなじませたときに、手のひらの上の洗浄料組成物が厚みを維持できるかについて評価した。

A：洗浄料組成物が厚みを維持できた；

B：洗浄料組成物が厚みを維持できなかった。

[0134] [洗浄力]

ファンデーションを塗布した白色の人工皮革を各試験例の洗浄料組成物で洗浄し、ファンデーションを除去できたかについて評価した。ファンデーションを除去できたかの評価は、塗布前の人工皮革に対して、ファンデーションの洗浄前と洗浄後の明度の差を用いて計算した洗浄率を用いた。洗浄率は以下の式より算出した。明度は、分光測色計（Konica Minolta社製 Spectrophotometer CM-5）で測定したL*値を用いた。

$$\text{洗浄率 (\%)} = (Z - Y) / (X - Y) \times 100$$

X：ファンデーションを塗布する前の新品の人工皮革の明度（L*）

Y：ファンデーションを塗布した人工皮革の明度（L*）

Z：洗浄後の人工皮革の明度（L*）

A：洗浄率Dが80%以上であった；

B：洗浄率Dが80%未満であった。

[0135] [試験例 1～14]

(A2) 第2の油分の種類を変えて洗浄料組成物を作製した。表1～表3に、組成及び評価を示す。

[0136] 第2の油分に相当する油分を含まない試験例9及び10においては、使用時の厚みが得られなかった。第2の油分の代わりに、3価の多価アルコールと高級脂肪酸とのジエステル油を用いた試験例11においては、液状油分と界面活性剤との相溶性が得られなかった。また、3価の多価アルコールと炭素数8の高級脂肪酸とのトリエステル油であっても粘度が $25 \text{ mPa} \cdot \text{s}$ の液状油分を用いた試験例12では、塗布した組成物に厚みがなく、透明な組成物外観も得られなかった。第2の油分の代わりに炭化水素を用いた試験例13及び14においては十分な洗浄性が得られなかった。一方、上述のような液状の第2の油分を用いた試験例1～8によれば、いずれの評価項目の良好であった。

[0137]

[表1]

試験例		1	2	3	4	5
(A1) エチルヘキサン酸セチル* ¹		49	32.8	49	49	32.8
(A2) トリイソステアリン* ²		16.5	32.7	-	-	-
(A2) トリイソステアリン* ³		-	-	16.5	-	-
(A2) ラウロイルグルタミン酸ジ (フィトステリル/オクチルドデシル) * ⁴		-	-	-	16.5	32.7
(A2) ラウロイルグルタミン酸ジ (ヘキシルデシル) * ⁵		-	-	-	-	-
(A2) ステアロイルグルタミン酸ジオクチルドデシル* ⁶		-	-	-	-	-
(A') ジイソステアリン酸グリセリル* ⁷		-	-	-	-	-
(A') トリエチルヘキサノイン* ⁸		-	-	-	-	-
(A') 流動パラフィン* ⁹		-	-	-	-	-
(B) イソステアリン酸PEG-8グリセリル* ¹⁰		21.8	32.7	32.7	21.8	32.7
(B) ヤシ油脂肪酸PEG-7グリセリル* ¹¹		10.9	-	-	10.9	-
水		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
グリセリン		1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
合計		100	100	100	100	100
粘度 (mPa・s)		55	>100	50	57	>100
相溶性		A	A	A	A	A
目 値	外観	A	A	A	A	A
	白濁化の有無	A	A	A	A	A
	乾いた手上での厚み	A	A	A	A	A
	洗浄力	A	A	A	A	A
*1: 粘度10mPa・s						
*2: グリセリンとヘプタデカン-8-カルボン酸とのトリエステル (IOB=0.162); 粘度5, 500mPa・s						
*3: グリセリンと2, 2, 4, 8, 10, 10-ヘキサメチルウンデカン-5-カルボン酸とのトリエステル (IOB=0.188); 粘度80mPa・s						
*4: 粘度2, 000mPa・s						
*5: 粘度350mPa・s						
*6: ワックス状						
*7: 粘度80mPa・s						
*8: 粘度25mPa・s						
*9: 粘度30mPa・s						
*10: HLB=10						
*11: HLB=14						

[0138]

[表2]

試験例		6	7	8	9	10
(A1)エチルヘキサン酸セチル* ¹		54.5	54.5	54.5	65.5	67
(A2)トリイソステアリン* ²		-	-	-	-	-
(A2)トリイソステアリン* ³		-	-	-	-	-
(A2)ラウロイルグルタミン酸ジ (フィトステリル / オクチルドデシル) * ⁴		-	-	-	-	-
(A2)ラウロイルグルタミン酸ジ (ヘキシルデシル) * ⁵		11.0	-	-	-	-
(A2)ステアロイルグルタミン酸ジオクチルドデシル* ⁶		-	11.0	11.0	-	-
(A')ジイソステアリン酸グリセリル* ⁷		-	-	-	-	-
(A')トリエチルヘキサノイン* ⁸		-	-	-	-	-
(A')流動パラフィン* ⁹		-	-	-	-	-
(B)イソステアリン酸PEG-8グリセリル* ¹⁰		21.8	32.7	21.8	21.8	32
(B)ヤシ油脂脂肪酸PEG-7グリセリル* ¹¹		10.9	-	10.9	10.9	-
水		0.5	0.5	0.5	0.5	1
グリセリン		1.3	1.3	1.3	1.3	-
合計		100	100	100	100	100
粘度 (m P a · s)		67	83	80	35	25
相溶性		A	A	A	A	A
性状	外観	A	A	A	A	A
	白濁化の有無	A	A	A	A	A
	使用時の厚み	A	A	A	B	B
	洗浄力	A	A	A	A	A

[0139]

[表3]

試験例		11	12	13	14
(A1)エチルヘキサン酸セチル* ¹		32.8	49	32.8	17.7
(A2)トリイソステアリン* ²		-	-	-	-
(A2)トリイソステアリン* ³		-	-	-	-
(A2)ラウロイルグルタミン酸ジ(フィトステリル/オクチルドデシル)* ⁴		-	-	-	-
(A2)ラウロイルグルタミン酸ジ(ヘキシルデシル)* ⁵		-	-	-	-
(A2)ステアロイルグルタミン酸ジオクチルドデシル* ⁶		-	-	-	-
(A')ジイソステアリン酸グリセリル* ⁷		32.7	-	-	-
(A')トリエチルヘキサノイン* ⁸		-	16.5	-	-
(A')流動パラフィン* ⁹		-	-	32.7	41.3
(B)イソステアリン酸PEG-8グリセリル* ¹⁰		21.8	21.8	32.7	40
(B)ヤシ油脂肪酸PEG-7グリセリル* ¹¹		10.9	10.9	-	-
水		0.5	0.5	0.5	1
グリセリン		1.3	1.3	1.3	-
合計		100	100	100	100
粘度 (mPa・s)		65	40	65	>100
相溶性		B	B	A	A
性状	外観	B	B	A	A
	白濁化の有無	A	A	A	A
	使用時の厚み	A	B	A	A
	洗浄力	A	A	B	B

[0140] [試験例15～19]

(B) 界面活性剤の含有率を変えて洗浄料組成物を作製した。表4に、組成及び評価を示す。

[0141] 界面活性剤が10質量%の試験例15においては、組成物が不透明になると共に、水との混合により白濁化が生じた。界面活性剤が50質量%の試験例19においては、液状油分量が減少したため、化粧品に対する洗浄力が低下した。一方、界面活性剤が20質量%～40質量%の試験例16～18においては、良好な評価が得られた。これより、界面活性剤は、洗浄料組成物の質量に対して、12質量%以上、好ましくは15質量%以上、より好ましくは20質量%以上が好ましいと考えられる。界面活性剤は、洗浄料組成物の質量に対して、45質量%以下が好ましいと考えられる。

[0142]

[表4]

試験例		15	16	17	18	19
(A1)エチルヘキサン酸セチル* ¹		67	59	52	44	37
(A2)トリイソステアリン* ²		22	20	17	15	12
(B)イソステアリン酸PEG-8グリセリル* ¹⁰		8	16	24	32	40
(B)ヤシ油脂肪酸PEG-7グリセリル* ¹¹		2	4	6	8	10
イソステアリン酸		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
水		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
合計		100	100	100	100	100
巨 細	外観	B	A	A	A	A
	白濁化の有無	B	A	A	A	A
	使用時の厚み	A	A	A	A	A
	洗浄力	A	A	A	A	B

[0143] [試験例20～26]

(A1) 第1の油分の種類を変えて洗浄料組成物を作製した。表5及び表6に、組成及び評価を示す。

[0144] 上述の化1に示す構造を有する液状油分を用いた試験例20～23においては、良好な評価が得られた。しかしながら、化1におけるR¹とR²の炭素数の合計が33である試験例24においては、界面活性剤との相溶性がなかった。また、試験例25及び26においても界面活性剤との相溶性がなかった。

[0145] [表5]

試験例		20	21	22	23
(A1)パルミチン酸エチルヘキシル		49.8	49.8	-	-
(A1)ミリスチン酸イソプロピル		-	-	33.1	-
(A1)ピバリン酸イソデシル		-	-	-	33.1
(A1)パルミチン酸イソステアリン		-	-	-	-
(A1)セバシン酸ジイソプロピル		-	-	-	-
(A1)ジピバリン酸PPG-3		-	-	-	-
(A2)トリイソステアリン* ²		16.6	16.6	33.1	33.1
(B)イソステアリン酸PEG-8グリセリル* ¹⁰		33.1	22.1	26.6	26.6
(B)ヤシ油脂肪酸PEG-7グリセリル* ¹¹		-	11	6.7	6.7
水		0.5	0.5	0.5	0.5
合計		100	100	100	100
相溶性		A	A	A	A
巨 細	外観	A	A	A	A
	白濁化の有無	A	A	A	A
	使用時の厚み	A	A	A	A
	洗浄力	A	A	A	A

[0146] [表6]

		試験例	24	25	26
(A1)パルミチン酸エチルヘキシル			-	-	-
(A1)ミリスチン酸イソプロピル			-	-	-
(A1)ピバリン酸イソデシル			-	-	-
(A1)パルミチン酸イソステアリル			49.8	-	-
(A1)セバシン酸ジイソプロピル			-	49.8	-
(A1)ジピバリン酸PPG-3			-	-	49.8
(A2)トリイソステアリン* ²			16.6	16.6	16.6
(B)イソステアリン酸PEG-8グリセリル* ¹⁰			22.1	22.1	22.1
(B)ヤシ油脂脂肪酸PEG-7グリセリル* ¹¹			11	11	11
水			0.5	0.5	0.5
合計			100	100	100
相溶性			B	B	B
巨 細	外観		-	-	-
	白濁化の有無		-	-	-
	使用時の厚み		-	-	-
	洗浄力		-	-	-

[0147] [試験例 27～29]

(A1) 界面活性剤の種類及び量を変えて洗浄料組成物を作製した。表7に、組成及び評価を示す。

[0148] HLBが8～14のポリオキシエチレングリセリン脂肪酸エステルを用いた試験例27～29においては、いずれも良好な評価が得られた。

[0149]

[表7]

		試験例	27	28	29
(A1)エチルヘキサン酸セチル* ¹			49	49	49
(A2)トリイソステアリン* ²			16.5	16.5	16.5
(B)イソステアリン酸PEG-8グリセリル* ¹⁰			28.4	-	-
(B)ヤシ油脂肪酸PEG-7グリセリル* ¹¹			-	-	10.9
(B)イソステアリン酸PEG-20グリセリル* ¹²			4.3	-	-
(B)トリイソステアリン酸PEG-20グリセリル* ¹³			-	32.7	21.8
水			0.5	0.5	0.5
グリセリン			1.3	1.3	1.3
合計			100	100	100
粘度 (mPa・s)			>100	52	53
相溶性			A	A	A
目録	外観		△	△	△
	白濁化の有無		A	A	A
	使用時の厚み		A	A	A
	洗浄力		A	A	A
* 1 2 : HLB = 1 4					
* 1 3 : HLB = 8					

[0150] [試験例30～34]

(A1)第1の油分及び(A2)第2の油分の量を変えて洗浄料組成物を作製した。表8に、組成及び評価を示す。

[0151] 試験例30～34においては、いずれも良好な評価が得られた。これより、第1の油分は油性成分の総量に対して40質量%以上とすることができることが分かった。第1の油分は油性成分の総量に対して90質量%以下とすることができることが分かった。

[0152] 第2の油分は、油性成分の総量に対して、5質量%以上とすることができることが分かった。第2の油分は、油性成分の総量に対して、50質量%以下とすることができることが分かった。

[0153] 洗浄料組成物は10質量%以下の炭化水素油を含有しても、各評価項目に影響がないと考えられる。

[0154]

[表8]

試験例		30	31	32	33	34
(A1)エチルヘキサン酸セチル* ¹		55	50	47.5	45	30
(A1)パルミチン酸エチルヘキシル		2.45	2.45	2.45	2.45	2.45
(A2)トリイソステアリン* ³		5	10	12.5	15	30
(A')イソステアリン酸		0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
(A')イソドデカン		5	5	5	5	5
(B)イソステアリン酸PEG-8グリセリル* ¹⁰		30	30	30	30	30
ジブチルヒドロキシトルエン		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
水		0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
グリセリン		1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
合計		100	100	100	100	100
粘度 (mPa・s)		36	41	44	48	84
(A1)/(A)		0.84	0.77	0.73	0.70	0.48
(A2)/(A)		0.07	0.15	0.18	0.22	0.44
追 試	外観	A	A	A	A	A
	白濁化の有無	A	A	A	A	A
	使用時の厚み	A	A	A	A	A
	洗浄力	A	A	A	A	A

[0155] [試験例35～41]

(B) 界面活性剤の量を変えて洗浄料組成物を作製した。表9に、組成及び評価を示す。

[0156] 試験例35～41においては、いずれも良好な評価が得られた。これより、HLB8～14であれば、界面活性剤全体のHLBを変化させても上記効果が得られることが分かった。また、水は0.5質量%以下でも上記効果が得られることが分かった。

[0157]

[表9]

試験例		35	36	37	38	39	40	41
(A1)エチルヘキサン酸セチル* ¹		45	45	45	45	45.2	45.2	45.2
(A1)パルミチン酸エチルヘキシル		2.45	2.45	2.45	2.45	2.45	2.45	2.45
(A2)トリイソステアリン* ³		15	15	15	15	15	15	15
(A')イソステアリン酸		0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
(A')インドデカン		5	5	5	5	5	5	5
(B)イソステアリン酸PEG-8グリセリル* ¹⁰		30	24	20	18	30	20	18
(B)ヤシ油脂脂肪酸PEG-7グリセリル* ¹¹		-	6	10	12	-	10	12
ジブチルヒドロキソトルエン		0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
水		0.5	0.5	0.5	0.5	0.3	0.3	0.3
グリセリン		1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
合計		100	100	100	100	100	100	100
追 註	外観	A	A	A	A	A	A	A
	白濁化の有無	A	A	A	A	A	A	A
	使用時の厚み	A	A	A	A	A	A	A
	洗浄力	A	A	A	A	A	A	A

[0158] [試験例4 2～4 5]

イソステアリン酸及びグリセリンの量を変えて洗浄料組成物を作製した。

表10に、組成及び評価を示す。

[0159] 試験例4 2～4 5においては、いずれも良好な評価が得られた。これより、イソステアリン酸及びグリセリンは、各評価項目に影響を与えないと考えられる。

[0160]

[表10]

試験例		42	43	44	45
(A1)エチルヘキサン酸セチル* ¹		残余	残余	残余	残余
(A1)パルミチン酸エチルヘキシル		2.45	2.45	2.45	2.45
(A2)トリイソステアリン* ²		12.5	12.5	15	15
(A ⁷)イソステアリン酸		-	0.4	0.8	1.0
(A ⁷)イソドデカン		5	5	5	5
(B)トリイソステアリン酸PEG-8グリセリル* ³		24	24	24	24
(B)トリイソステアリン酸PEG-7グリセリル* ⁴		6	6	6	6
ジブチルヒドロキシトルエン		0.05	0.05	0.05	0.05
水		0.5	0.1	0.5	0.5
グリセリン		-	0.6	1.5	1
合計		100	100	100	100
性状	外観	A	A	A	A
	白濁化の有無	A	A	A	A
	使用時の厚み	A	A	A	A
	洗浄力	A	A	A	A

[0161] 本発明の洗浄料組成物は、上記実施形態及び実施例に基づいて説明されているが、上記実施形態及び実施例に限定されることなく、本発明の範囲内において、かつ本発明の基本的技術思想に基づいて、各開示要素（請求の範囲、明細書及び図面に記載の要素を含む）に対し種々の変形、変更及び改良を含むことができる。また、本発明の請求の範囲の範囲内において、各開示要素の多様な組み合わせ・置換ないし選択が可能である。

[0162] 本発明のさらなる課題、目的及び形態（変更形態含む）は、請求の範囲を含む本発明の全開示事項からも明らかにされる。

[0163] 本書に記載した数値範囲については、別段の記載のない場合であっても、当該範囲内に含まれる任意の数値ないし範囲が本書に具体的に記載されているものと解釈されるべきである。

[0164] 上記実施形態の一部又は全部は、以下の付記のようにも記載されうるが、以下の記載には限定されない。各付記は、特許請求の範囲に記載の各請求項と組み合わせることもできる。

[付記1]

本開示の洗浄料組成物を顔用の洗浄料として使用する、洗浄料組成物の使

用方法。

[付記 2]

本開示の洗浄料組成物を化粧品除去洗浄料として使用する、洗浄料組成物の使用方法。

産業上の利用可能性

[0165] 本開示の洗浄料組成物は、例えば、肌に適用する洗浄料、皮膚外用剤等に適用することができる。例えば、本開示の洗浄料組成物は、メイク落としに適用することができる。

請求の範囲

[請求項1]

(A) 50質量%～85質量%の油性成分と、

(B) 12質量%～45質量%の界面活性剤と、

を含み、

前記(A)油性成分は、

(A1) 下記化1に示す式で表されるエステル油からなる液状の第1の油分と、

(A2) 第1のエステル油、第2のエステル油及び第3のエステル油からなる群から選択される少なくとも1つである第2の油分と、
を含み、

前記第1のエステル油は、3価の多価アルコールと、炭素数8以上の高級脂肪酸とのトリエステル化合物であり、

前記第2のエステル油は、4価の多価アルコールと、炭素数6以上の高級脂肪酸とのトリエステル化合物及びテトラエステル化合物からなる群から選択される少なくとも1つであり、

前記第3のエステル油は、炭素数16以上の高級アルコールと、アシル基の炭素数が10以上のN-アシルグルタミン酸とのジエステル化合物であり、

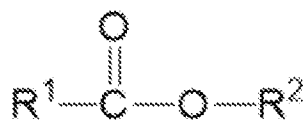
前記第2の油分は、30℃において40mPa・s以上の粘度を有し、

炭化水素油が洗浄料組成物の質量に対して10質量%以下であり、

シリコン油が洗浄料組成物の質量に対して5質量%以下であり、

水が洗浄料組成物の質量に対して5質量%以下である、洗浄料組成物：

[化1]



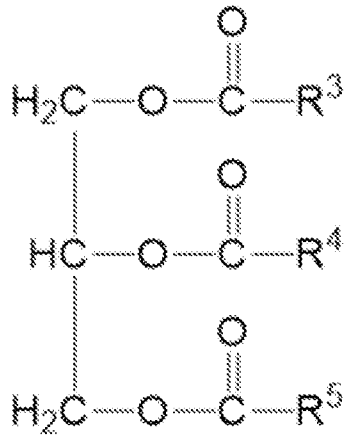
化1に示す式において、

R¹は直鎖又は分岐鎖を有する炭素数3～18のアルキル基であり、
R²は直鎖又は分岐鎖を有する炭素数3～18のアルキル基であり、
R¹とR²の炭素数の合計は30以下である。

[請求項2]

前記第1のエステル油は、下記化2に示す式で表される化合物、及び下記化3に示す式で表される化合物からなる群から選択される少なくとも1つである、請求項1に記載の洗浄料組成物：

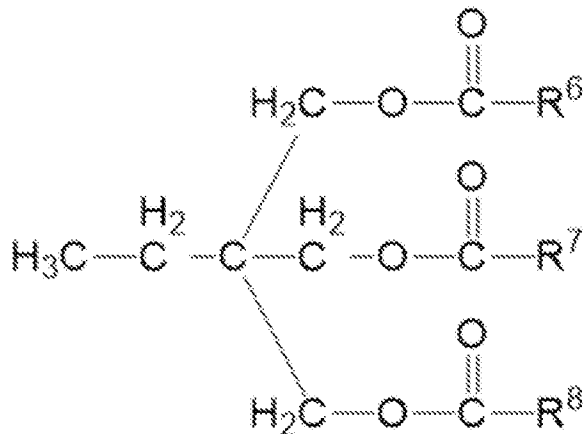
[化2]



化2に示す式において、

R³～R⁵は、それぞれ独立して、直鎖又は分岐鎖を有する炭素数7～20のアルキル基である；

[化3]



化3に示す式において、

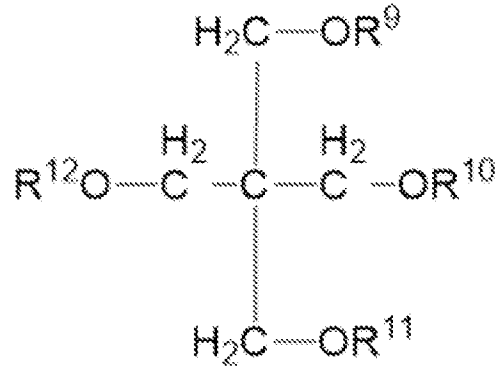
R⁶～R⁸は、それぞれ独立して、直鎖又は分岐鎖を有する炭素数7

～19のアルキル基である；

[請求項3]

前記第2のエステル油は、下記化4に示す式で表される化合物、及び下記化5に示す式で表される化合物からなる群から選択される少なくとも1つである、請求項1又は2に記載の洗浄料組成物：

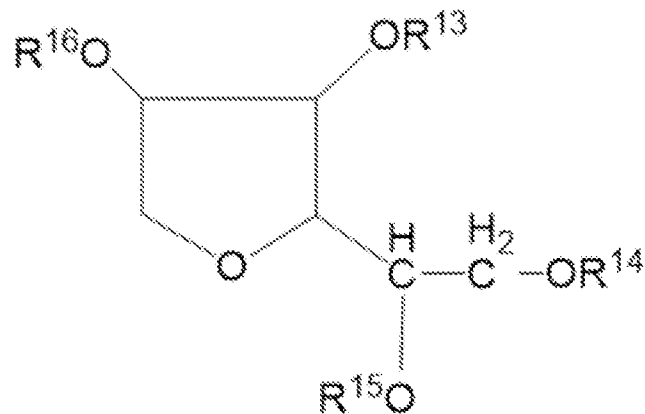
[化4]



化4に示す式において、

$\text{R}^9 \sim \text{R}^{12}$ のうち、いずれか3つは、それぞれ独立して、直鎖又は分岐鎖を有する炭素数6～12のアシル基であり、残り1つは、直鎖もしくは分岐鎖を有する炭素数6～12のアシル基又は水素原子である。

[化5]



化5に示す式において、

$\text{R}^{13} \sim \text{R}^{16}$ はのうちいずれか3つは、それぞれ独立して、直鎖又は分岐鎖を有する炭素数12～22のアシル基であり、残り1つは、直鎖もしくは分岐鎖を有する炭素数12～22のアシル基又は水素原

%である、請求項 1～6 のいずれか一項に記載の洗浄料組成物。

- [請求項8] 前記第 1 の油分、前記第 2 の油分及び前記界面活性剤を質量比 1 : 1 : 1 で 25℃で混合した混合物は透明である、請求項 1～7 のいずれか一項に記載の洗浄料組成物。
- [請求項9] 前記界面活性剤はポリオキシアルキレングリセリン脂肪酸エステルである、請求項 1～8 のいずれか一項に記載の洗浄料組成物。
- [請求項10] 前記界面活性剤のHLBは8～14である、請求項 1～9 のいずれか一項に記載の洗浄料組成物。
- [請求項11] 前記油性成分は、洗浄料組成物の質量に対して0.2質量%～2質量%のイソステアリン酸をさらに含む、請求項 1～10 のいずれか一項に記載の洗浄料組成物。
- [請求項12] 30℃において25 mPa·s～3,000 mPa·sの粘度を有する、請求項 1～11 のいずれか一項に記載の洗浄料組成物。
- [請求項13] 油ゲル化剤が洗浄料組成物の質量に対して0.5質量%以下である、請求項 1～12 のいずれか一項に記載の洗浄料組成物。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2022/022130

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER		
<p>A61K 8/37(2006.01)i; A61K 8/02(2006.01)i; A61K 8/31(2006.01)i; A61K 8/36(2006.01)i; A61K 8/39(2006.01)i; A61K 8/44(2006.01)i; A61K 8/63(2006.01)i; A61K 8/891(2006.01)i; A61Q 1/14(2006.01)i; A61Q 19/10(2006.01)i FI: A61K8/37; A61K8/02; A61K8/31; A61K8/36; A61K8/39; A61K8/44; A61K8/63; A61K8/891; A61Q1/14; A61Q19/10</p> <p>According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC</p>		
B. FIELDS SEARCHED		
Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) A61K8/37; A61K8/02; A61K8/31; A61K8/36; A61K8/39; A61K8/44; A61K8/63; A61K8/891; A61Q1/14; A61Q19/10		
Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched Published examined utility model applications of Japan 1922-1996 Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2022 Registered utility model specifications of Japan 1996-2022 Published registered utility model applications of Japan 1994-2022		
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used) Mintel GNPD		
C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2017-095375 A (KAO CORP) 01 June 2017 (2017-06-01) claims, paragraphs [0009]-[0033], [0039], [0045], [0058]	1-12
A		13
X	JP 2007-161627 A (POLA CHEM IND INC) 28 June 2007 (2007-06-28) claims, paragraphs [0002]-[0006], [0008], [0010], [0012], [0017]	1-4, 6-12
A		5, 13
A	JP 2006-306780 A (KAO CORP) 09 November 2006 (2006-11-09) entire text	1-13
A	JP 2004-075554 A (KANEBO LTD) 11 March 2004 (2004-03-11) entire text	1-13
A	W Cleansing Oil. Naris Cosmetics. August 2019, Intel GNPD [online], [retrieval date 01 August 2022], internet: <URL:https://www.gnpd.com>, Accession No. 6757295 in particular, product description, content of the appeal, component	1-13
<input type="checkbox"/> Further documents are listed in the continuation of Box C. <input checked="" type="checkbox"/> See patent family annex.		
<p>* Special categories of cited documents:</p> <p>“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance</p> <p>“E” earlier application or patent but published on or after the international filing date</p> <p>“L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)</p> <p>“O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means</p> <p>“P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed</p> <p>“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention</p> <p>“X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone</p> <p>“Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art</p> <p>“&” document member of the same patent family</p>		
Date of the actual completion of the international search 01 August 2022		Date of mailing of the international search report 16 August 2022
Name and mailing address of the ISA/JP Japan Patent Office (ISA/JP) 3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915 Japan		Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.

PCT/JP2022/022130

Patent document cited in search report	Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
JP 2017-095375	A	01 June 2017	(Family: none)
JP 2007-161627	A	28 June 2007	(Family: none)
JP 2006-306780	A	09 November 2006	(Family: none)
JP 2004-075554	A	11 March 2004	(Family: none)

<p>A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC））</p> <p>A61K 8/37(2006.01)i; A61K 8/02(2006.01)i; A61K 8/31(2006.01)i; A61K 8/36(2006.01)i; A61K 8/39(2006.01)i; A61K 8/44(2006.01)i; A61K 8/63(2006.01)i; A61K 8/891(2006.01)i; A61Q 1/14(2006.01)i; A61Q 19/10(2006.01)i FI: A61K8/37; A61K8/02; A61K8/31; A61K8/36; A61K8/39; A61K8/44; A61K8/63; A61K8/891; A61Q1/14; A61Q19/10</p>																										
<p>B. 調査を行った分野</p> <p>調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC））</p> <p>A61K8/37; A61K8/02; A61K8/31; A61K8/36; A61K8/39; A61K8/44; A61K8/63; A61K8/891; A61Q1/14; A61Q19/10</p> <p>最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの</p> <table border="0"> <tr> <td>日本国実用新案公報</td> <td>1922-1996年</td> </tr> <tr> <td>日本国公開実用新案公報</td> <td>1971-2022年</td> </tr> <tr> <td>日本国実用新案登録公報</td> <td>1996-2022年</td> </tr> <tr> <td>日本国登録実用新案公報</td> <td>1994-2022年</td> </tr> </table> <p>国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）</p> <p>Mintel GNPD</p>			日本国実用新案公報	1922-1996年	日本国公開実用新案公報	1971-2022年	日本国実用新案登録公報	1996-2022年	日本国登録実用新案公報	1994-2022年																
日本国実用新案公報	1922-1996年																									
日本国公開実用新案公報	1971-2022年																									
日本国実用新案登録公報	1996-2022年																									
日本国登録実用新案公報	1994-2022年																									
<p>C. 関連すると認められる文献</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>引用文献の カテゴリー*</th> <th>引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示</th> <th>関連する 請求項の番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>X</td> <td>JP 2017-095375 A（花王株式会社）01.06.2017（2017-06-01） 特許請求の範囲，[0009]-[0033]，[0039]，[0045]，[0058]</td> <td>1-12</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td></td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>X</td> <td>JP 2007-161627 A（ポーラ化成工業株式会社）28.06.2007（2007-06-28） 特許請求の範囲，[0002]-[0006]，[0008]，[0010]，[0012]，[0017]</td> <td>1-4, 6-12</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td></td> <td>5, 13</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>JP 2006-306780 A（花王株式会社）09.11.2006（2006-11-09） 全文</td> <td>1-13</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>JP 2004-075554 A（カネボウ株式会社）11.03.2004（2004-03-11） 全文</td> <td>1-13</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>W Cleansing Oil, Naris Cosmetics, 2019年8月, Mintel GNPD [online], [検索日 2022.08.01], インターネット:<URL:https://www.gnpd.com>, Accession No. 6757295 特に、商品説明、訴求内容、成分</td> <td>1-13</td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> C欄の続きにも文献が列挙されている。 <input checked="" type="checkbox"/> パテントファミリーに関する別紙を参照。</p> <p>* 引用文献のカテゴリー</p> <p>“A” 特に関連のある文献ではなく、一般的な技術水準を示すもの</p> <p>“E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの</p> <p>“L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）</p> <p>“O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献</p> <p>“P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献</p> <p>“T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの</p> <p>“X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの</p> <p>“Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの</p> <p>“&” 同一パテントファミリー文献</p>			引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号	X	JP 2017-095375 A（花王株式会社）01.06.2017（2017-06-01） 特許請求の範囲，[0009]-[0033]，[0039]，[0045]，[0058]	1-12	A		13	X	JP 2007-161627 A（ポーラ化成工業株式会社）28.06.2007（2007-06-28） 特許請求の範囲，[0002]-[0006]，[0008]，[0010]，[0012]，[0017]	1-4, 6-12	A		5, 13	A	JP 2006-306780 A（花王株式会社）09.11.2006（2006-11-09） 全文	1-13	A	JP 2004-075554 A（カネボウ株式会社）11.03.2004（2004-03-11） 全文	1-13	A	W Cleansing Oil, Naris Cosmetics, 2019年8月, Mintel GNPD [online], [検索日 2022.08.01], インターネット:<URL:https://www.gnpd.com>, Accession No. 6757295 特に、商品説明、訴求内容、成分	1-13
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号																								
X	JP 2017-095375 A（花王株式会社）01.06.2017（2017-06-01） 特許請求の範囲，[0009]-[0033]，[0039]，[0045]，[0058]	1-12																								
A		13																								
X	JP 2007-161627 A（ポーラ化成工業株式会社）28.06.2007（2007-06-28） 特許請求の範囲，[0002]-[0006]，[0008]，[0010]，[0012]，[0017]	1-4, 6-12																								
A		5, 13																								
A	JP 2006-306780 A（花王株式会社）09.11.2006（2006-11-09） 全文	1-13																								
A	JP 2004-075554 A（カネボウ株式会社）11.03.2004（2004-03-11） 全文	1-13																								
A	W Cleansing Oil, Naris Cosmetics, 2019年8月, Mintel GNPD [online], [検索日 2022.08.01], インターネット:<URL:https://www.gnpd.com>, Accession No. 6757295 特に、商品説明、訴求内容、成分	1-13																								
<p>国際調査を完了した日</p> <p>01.08.2022</p>	<p>国際調査報告の発送日</p> <p>16.08.2022</p>																									
<p>名称及びあて先</p> <p>日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号</p>	<p>権限のある職員（特許庁審査官）</p> <p>池田 周士郎 4D 3909</p> <p>電話番号 03-3581-1101 内線 3421</p>																									

国際調査報告
特許ファミリーに関する情報

国際出願番号

PCT/JP2022/022130

引用文献	公表日	特許ファミリー文献	公表日
JP 2017-095375 A	01.06.2017	(ファミリーなし)	
JP 2007-161627 A	28.06.2007	(ファミリーなし)	
JP 2006-306780 A	09.11.2006	(ファミリーなし)	
JP 2004-075554 A	11.03.2004	(ファミリーなし)	